

西都の米作りの特徴 とくちょう

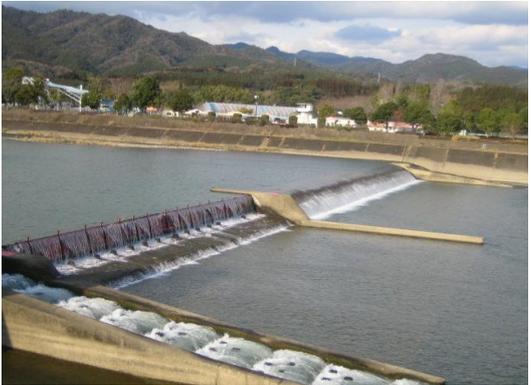
米は、もともと、暑い国で栽培される作物です。西都市は、温かく晴れの日が多く、米作りに適しています。また、一ツ瀬川、三財川、三納川が流れていて、水も豊富にあります。



(一ツ瀬川)



(児玉久 右衛門の像)



(杉安いぜき)

今から280年ほど前、児玉久右衛門によって、いぜきや用水路を作るなどして、新しい水田ができました。こうして、西都市は、現在のような稲作地帯を作ってきたのです。

しかし、宮崎県は、台風がよく来て、収穫前の米がいつしゅんでだめになることもたびたびありました。

そこで、台風が来る前に、収穫できないかと考えました。40年ほど前に、夏に収穫できる品種を宮崎県農業試験場が改良に成功しました。

今では、ほとんどが早期水稻で、その品種はコシヒカリです。

